

産業廃棄物処理業景況動向調査結果【概要版】

〔2020 年 4～6 月期〕

公益社団法人全国産業資源循環連合会

〔調査結果の概要〕

343 社の回答によれば、景況判断 DI は▲49 となり、東日本大震災後の水準まで悪化した。一方、次期への見通しは▲44 となり、5 ポイント改善する見込みとなっている。

経営上の問題点を見ると、12 期ぶりに「需要の停滞」が 1 位となり、需要停滞を問題視する回答が増加した。

新型コロナウイルスにより景気が大幅に下押しされ、前回調査に引き続き、厳しい状況にある。

2020 年 4-6 月期の景況判断を「悪化」とした企業は 52%で、前回調査(2020 年 1-3 月期 37%)より 15 ポイント悪化した。「好転」とした企業は 3%で前回調査(4%)より 1 ポイント悪化した。景況判断 DI は▲49 となり、前回調査(▲33)より 16 ポイント悪化した。

以下、その他業況感 DI の内訳

2020 年 1-3 月期に対して、

- ・売上高 DI は▲41 で、21 ポイント悪化
- ・処理量 DI は▲39 で、21 ポイント悪化
- ・営業利益 DI は▲35 で、18 ポイント悪化
- ・資金繰り DI は▲8 で、6 ポイント悪化
- ・借入難易度 DI は 12 で、5 ポイント改善
- ・設備投資 DI は▲8 で、6 ポイント悪化
- ・従業員数 DI は 2 で、2 ポイント改善
- ・契約単価 DI は、収集運搬が 2 で、2 ポイント悪化

処分が 7 で、1 ポイント悪化

- 売上高の動向については、前年同期比(3 ヶ月平均)で 2.9%減となった。
- 処理量の動向については、前年同期比(3 ヶ月平均)で 2.8%減となった。
- 経常利益率については、平均値が 5.17%で前回調査(5.30%)より悪化した。
- 経営上の問題点は、「需要の停滞」29.2%(前回 20.3%で 2 位)が 1 位となった。

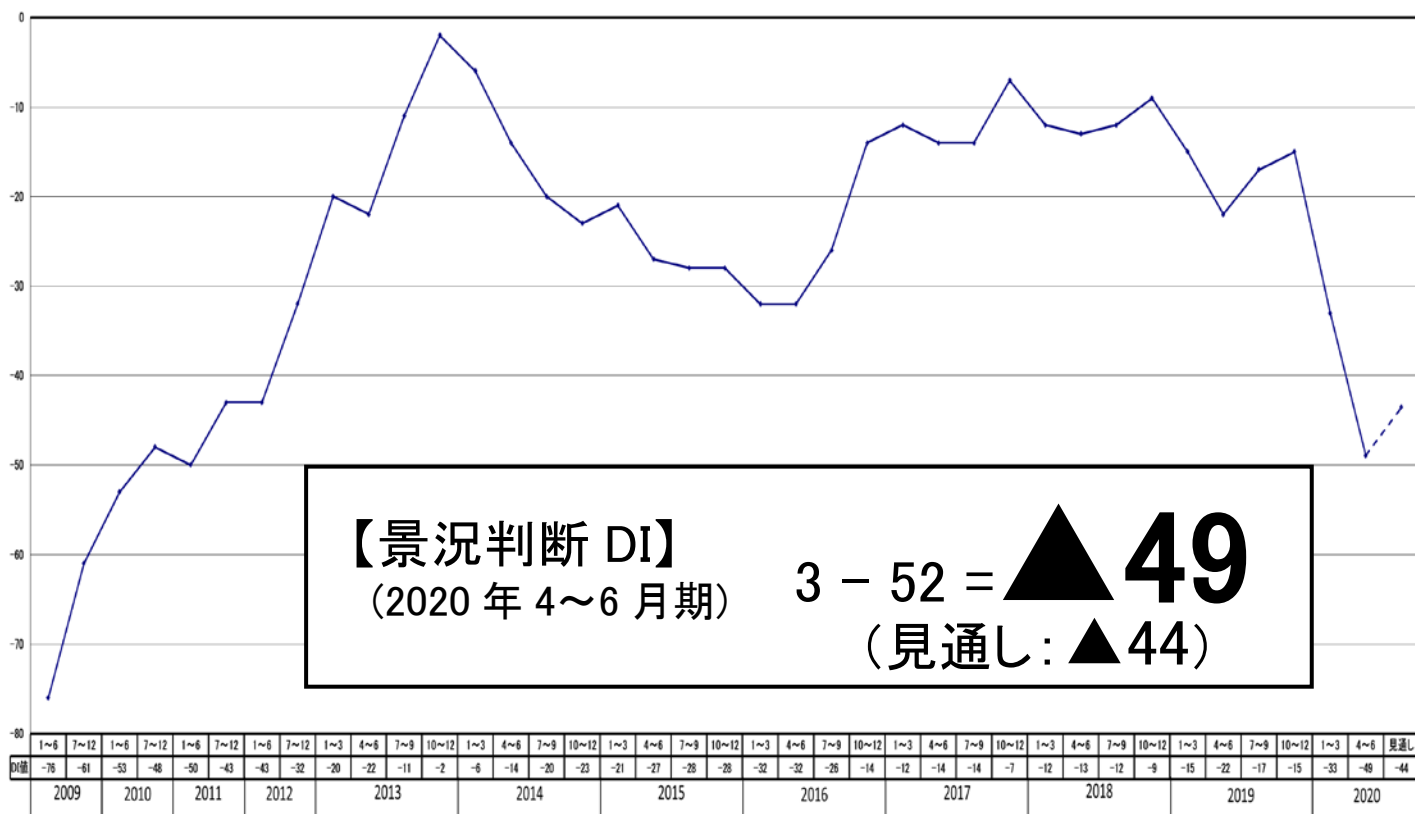
※DI とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

※本調査は、2009 年から半期周期の調査として実施していたが、2013 年からは四半期周期の調査に変更している。

〔調査の要領〕

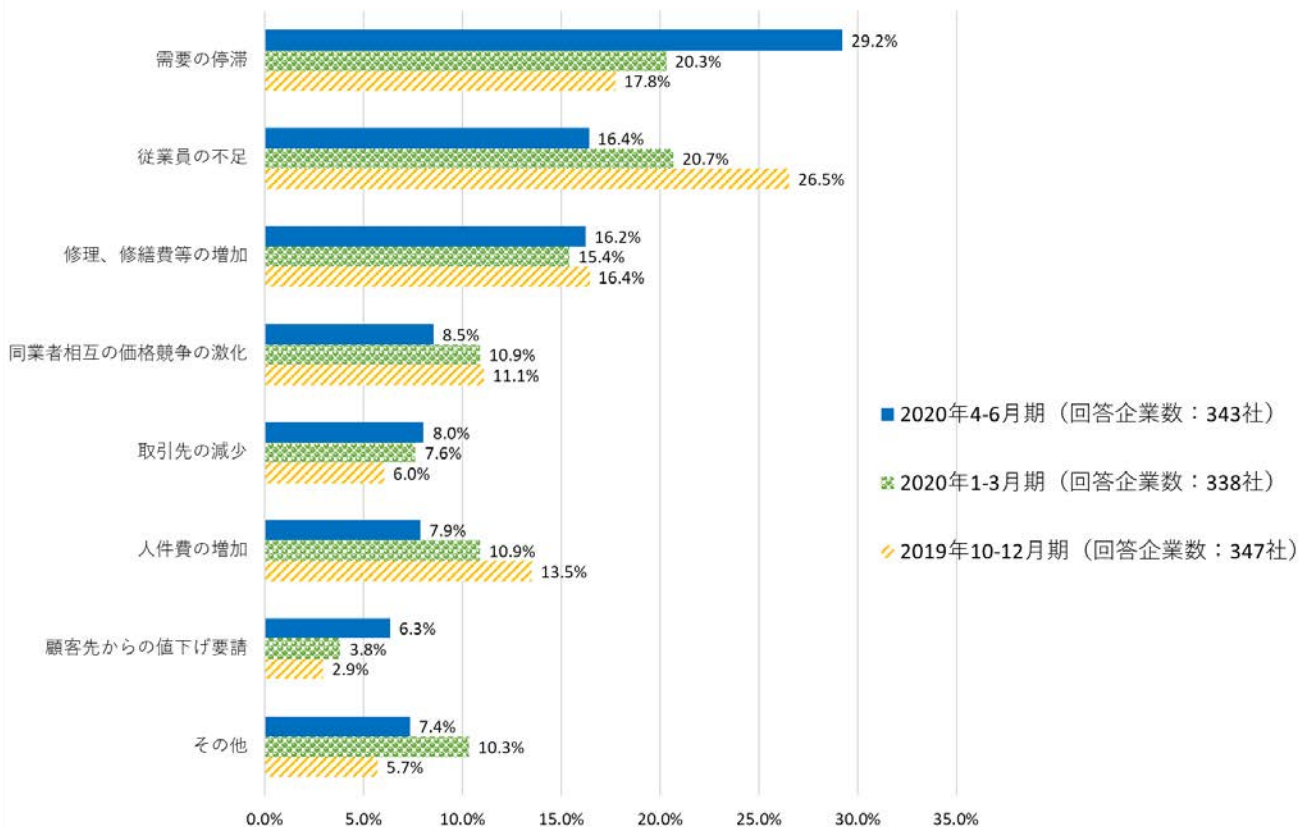
- 調査の対象:2008 年 10-12 月期で回答のあった全国の協会会員企業、全国産業資源循環連合会理事及び部会運営委員会委員
- 調査の方法:郵送によるアンケート
- 調査期間:令和 2 年 7 月 14 日～8 月 14 日
- 回答企業数:343 社

景況判断DI(2009年1月-6月～2020年4月-6月と見通し)



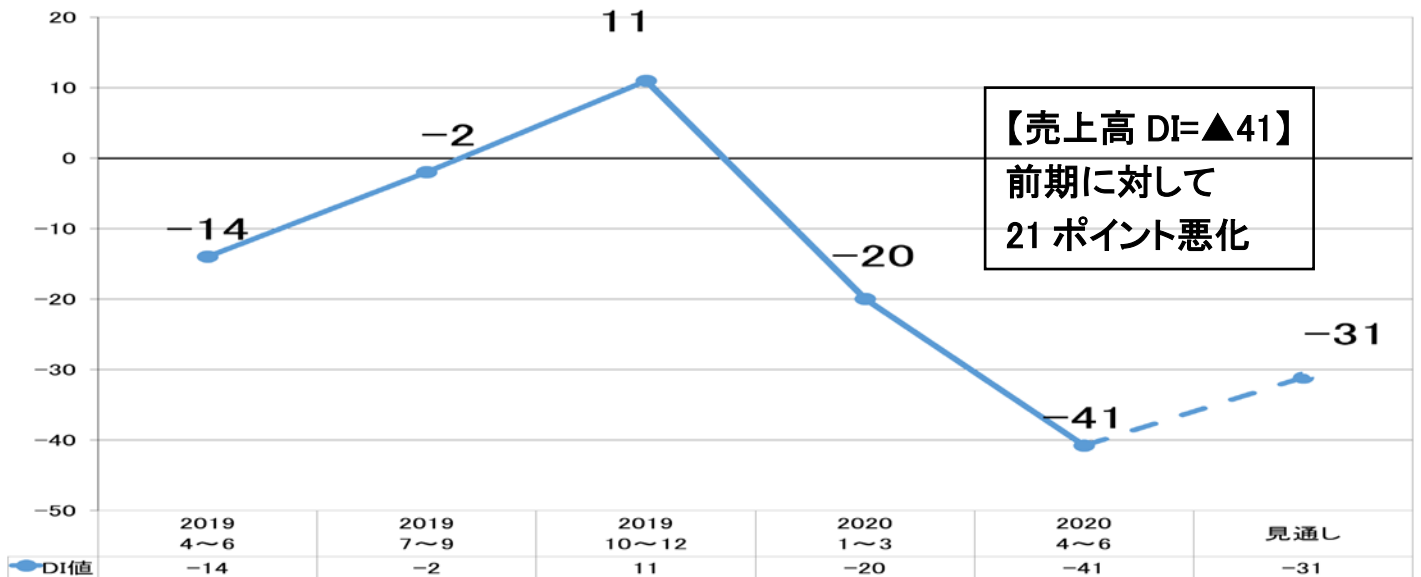
経営上の問題点(複数回答可)

<2020年4-6月期（回答企業数：343社）>



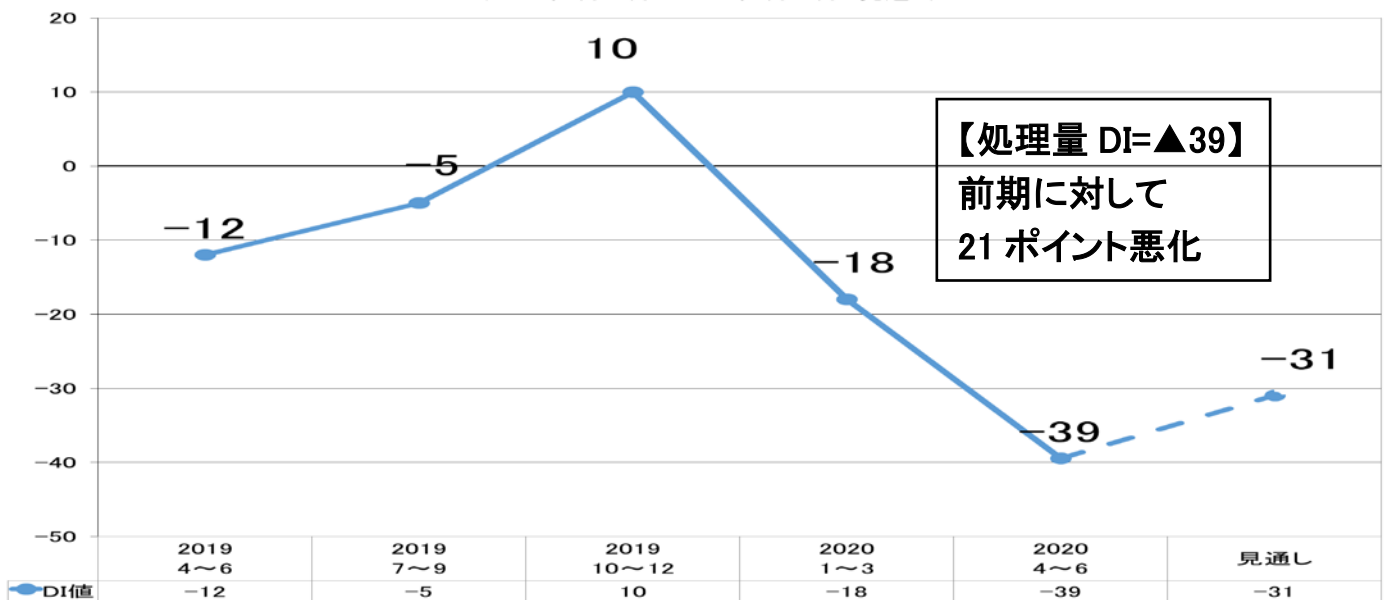
売上高DI

(2019年4月-6月～2020年4月-6月と見通し)



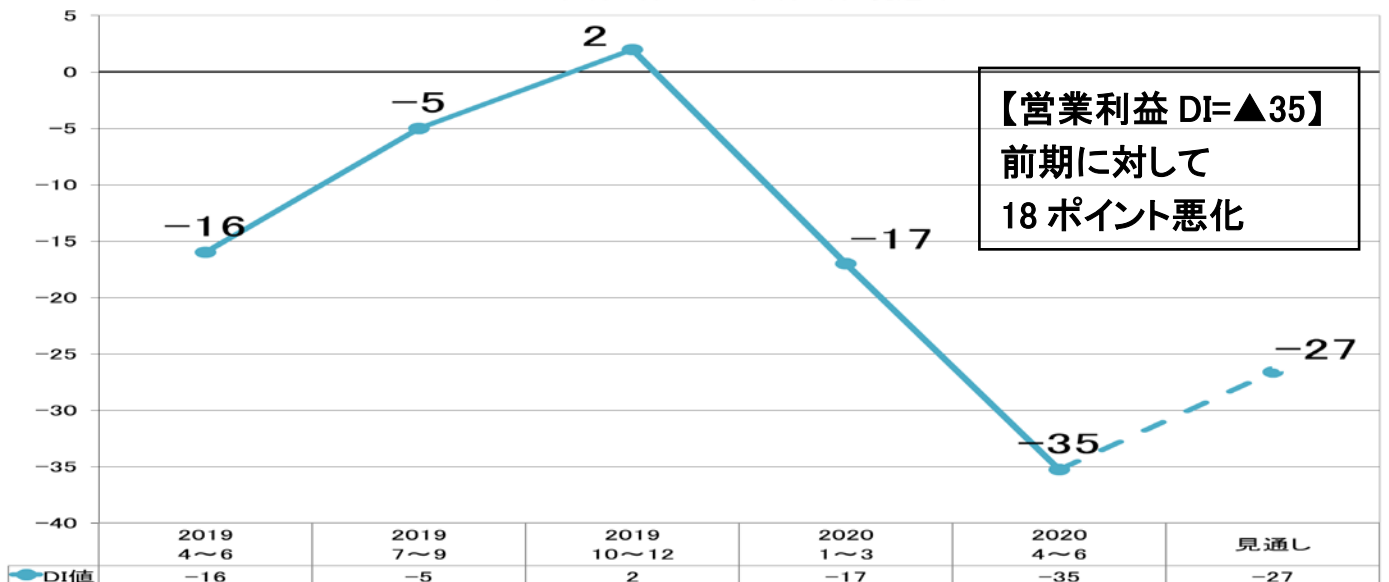
処理量DI

(2019年4月-6月～2020年4月-6月と見通し)



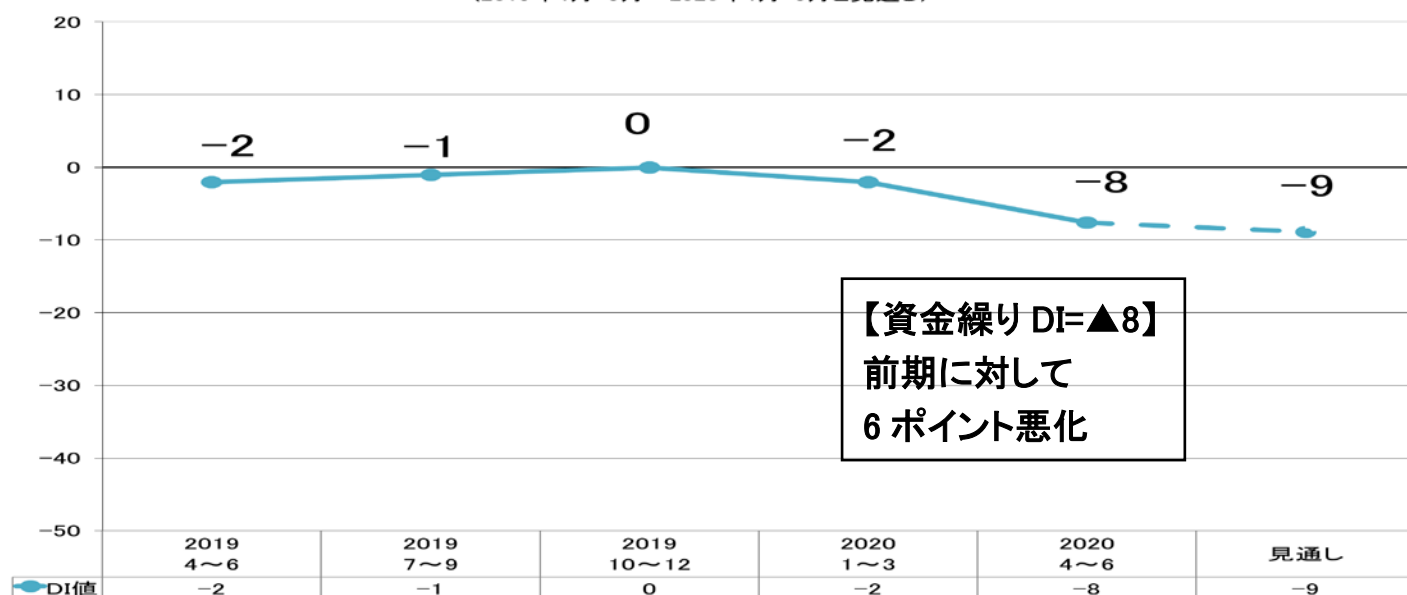
営業利益DI

(2019年4月-6月～2020年4月-6月と見通し)



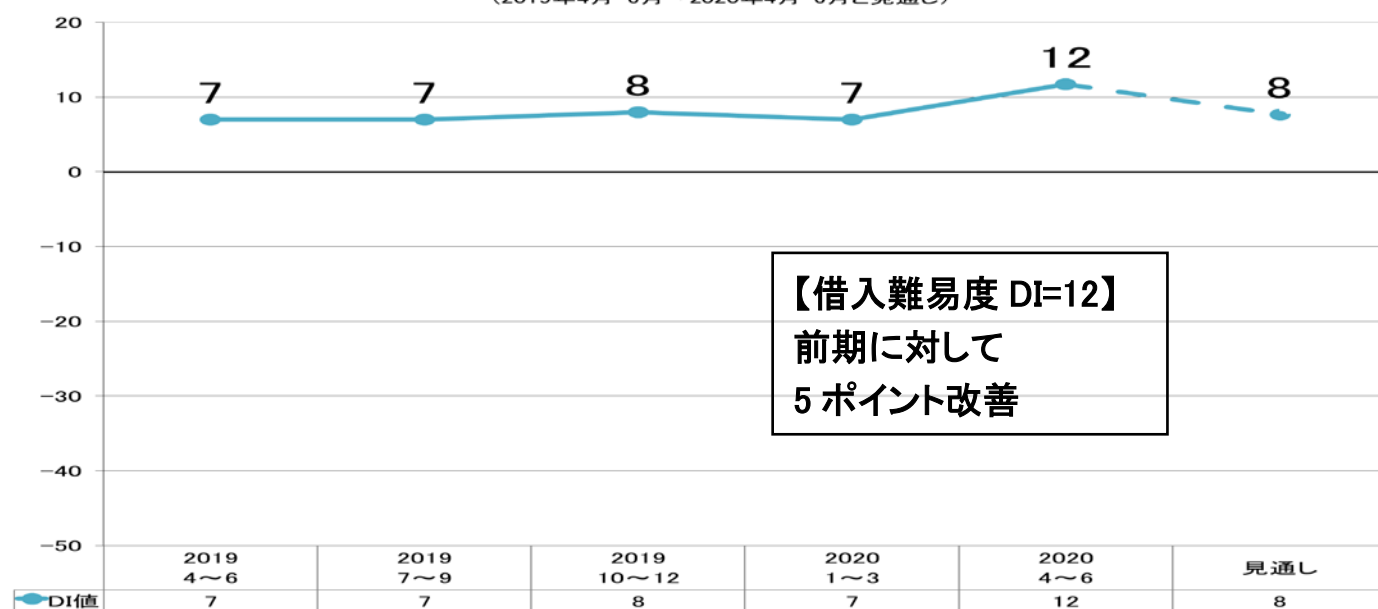
資金繰りDI

(2019年4月-6月～2020年4月-6月と見通し)



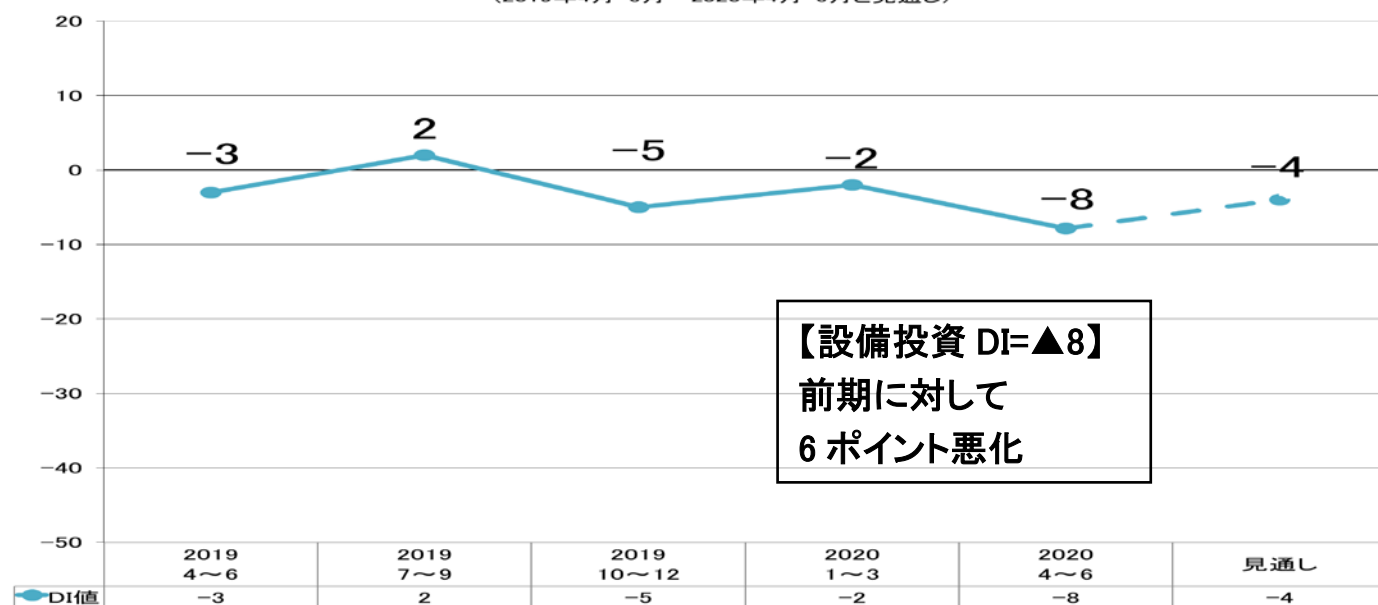
借入難易度DI

(2019年4月-6月～2020年4月-6月と見通し)



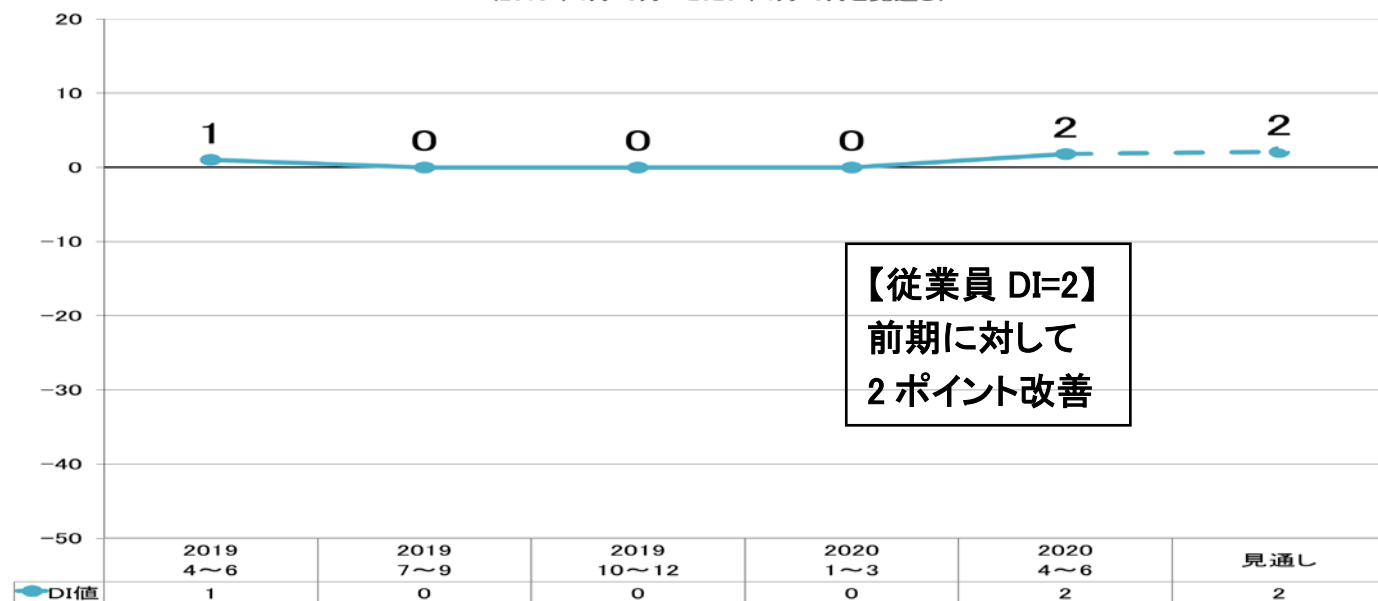
設備投資DI

(2019年4月-6月～2020年4月-6月と見通し)



従業員数DI

(2019年4月-6月～2020年4月-6月と見通し)



【従業員 DI=2】
前期に対して
2ポイント改善

【地域別レーダーチャート】

